

月の満ち欠け

6 / 6 (金)	上弦
6 / 13 (金)	満月
6 / 20 (金)	下弦
6 / 27 (金)	新月

ある調査に拠りますと、死亡事故に関して新月、満月の時期に集中しているという。私の長年の代理店経験でも、明らかに自動車事故は新月、満月の日に多いのです。いつも増して安全運転を。

事故対策 ワンポイントアドバイス
～トミー～

- ①小さな事故が急に多発することがある。注意配分能力の低下や考え事、身心疲労、集中力の問題が考えられる。
- ②高齢者や、傲慢な漫然運転者では危険を回避できないことがある。同時に多くの情報処理を必要とする場面で処理能力を超えることで事故が発生する。
- ▼自分自身のレベルの自覚
自らの心身機能の現状を自覚することからはじめ、その衰えをカバーする防衛運転方法の習得を心掛けます。
- ▼余裕のある運転
運転時の誤りが事故に至らないためには、その誤りを修正する時間的、距離的余裕が必要です。急ぎや怒りの気持ちで運転しないようにすることが大切です。
- ▼他者に対する配慮運転
安定したペースの運転で認知、判断の衰えをカバーし、同時に他車を含めた外界の安全確認の意識を行動と操作に定着させることが必要です。
- 「必要な注意喚起・確認」をしっかりと。慣れた道であっても、十分な減速や目視による確認を行い、死角に人や物があつた場合でも適切に対応できるよう、必要な注意確認を確実にいきましょう。「確認したつもり」になっていませんか？周囲の確認よりも運転操作が先行してしまうと、急な飛び出しや他の車の予想外な動きに対応できず、思わぬ事故につながる恐れがあります。また、一時停止の標識では確実にいったん止まり、ひと呼吸おいてから心に余裕を持って発進するようにしましょう。

立ち読み・ななめ読み

★「筋肉」よりも「骨」を使い！
著者：甲野善紀・松村卓 1080円
出版：ディスカバー携書

大事なものは筋肉ではなく骨。骨を意識すること、鍛えて固くすることよりも、柔軟にバランスよく保つことで、人間本来の強さ・力が発揮できると説く。陸上のポルト選手や桐生選手も、その観点で理にかなっている。これまで意識していなかった感覚を覚える本です。

★日本男児
著者：長友佑都 600円
出版：ポプラ文庫

ザックジャパンの中心選手長友選手の自伝。飾らないストレートな表現で、考えていたことを熱く語ってくれます。素晴らしい努力の天才。才能ももちろんですが、それに勝る努力がトップアスリートとしての長友選手を作り上げている。今頑張っている人、これから頑張ろうと思ってる人、そんな人達に読んで欲しいと思える本でした。

スタッフの声 吉村貴子

人それぞれ「座右の銘」をお持ちだと思います。私の座右の銘は「人間万事塞翁が馬」（吉凶が変転し、禍福は予測できないものであるという意味です）。その言葉には、変化をもたらす人知では計り知れない何かを感じることが出来ます。いつも自分が悩んだ時、進むべき方向を見失った時にこの言葉を思い出し、鼓舞します。

出会い感動 「中津城」

大河ドラマは、今から本能寺の変、そして天下泰平秀吉の時代から関ヶ原の合戦へと向かいます。4年前に中津城の記事を掲載させて頂き、城主黒田家のお話もさせて頂きました。先頃、大分県中津に立ち寄ることがありましたので再度山国川の河口、海岸近くに立つ中津城を訪れました。大阪城や江戸城・熊本城などと比べると規模は小さいながらも外敵に対する防御はとてよく考えられていると感じます。当時とは全く違い「黒田官兵衛」人気も手伝い、観光客が多く町はかなりの人でにぎわっていました。今回の私の観光目的は、官兵衛が大分に着任する際に姫路から住職共々中津に移したといわれる、赤壁で有名な「合元寺」です。なぜに「赤壁か」を知ると、とても怖くなりましたが行って来ました。怖さのあまり門をくぐることもできず、車中から双眼鏡で説明書きを拝見させていただきました。赤壁の謎につきましては皆様其々でお調べください。歴史的な名所がとてもコンパクトにまとまった町ですので皆様お訪ねになってはいかがでしょうか。

私は官兵衛が作ったといわれる「水五訓」が好きで前回の通信にも同じ内容を掲載させていただきました。かくのごとく生きられればと思うものです。

「水五則」

一つ「自ら活動して他を動かしむるは水なり」

一つ「常に己の進路を求めて止まざるは水なり」

一つ「障害にあい激しく其の勢力を百倍し得るは水なり」

一つ「自ら潔うして他の汚れを洗い清濁併せて容るるの量あるは水なり」

一つ「洋々として大洋を充たし発しては蒸気となり雲となり雨となり雪と変じ霞と化して凝っては玲瓏たる鏡となり而も其性を失はざるは水なり」

在る事の幸せ

ある町の集団清掃作業の事、毎回出席していた近所の男性がここ数回姿を見せなくなった。昼間も夜もあまり会うことがなくなった。暫くしてそれが母親の介護に専念しているからという事がわかった。会って話した時に「町の出事に出席できなくて申し訳ない。母親の介護でちょっと目が離せないから」という事だった。そうではないかと察していたものの、母一人子一人の環境の中、認知症を患った母の世話に追われる毎日で、彼は続けて言い切った。

「私の今の優先順位のトップは母です。母がいることは私の存在意義だから」。

その言葉を聞きながら「千の恩」という本に書かれていた言葉を思い出した。仕事を続けながら認知症の母を10年にわたって介護した。題材にそぐわないほど明るい本なのだが、母親との壮絶な日々と深い情愛が表裏一体でつづられている。そして今、見送った後の物足りなさを次のように書く、「人はこの世にいてこそ。その笑顔、その言葉、そのまなざし、その温かみまで『この世にいてこそ』です。姿が在るという事を、重くうけとめることがどれだけ大切か思い知らされた」人は突然姿を消してしまう。「良い思い出だけが胸にあるというわけではありません」と書いてあった。しかしそれでもなお「姿が在る」という、ただそれだけで幸せという実感。介護とは関係なく、互いに生きて「在る事」の幸せは心に留めておくべきではないかと感じた。

優先順位トップにおく男性の心情は図れないまでも人の幸せはその環境にならなければ到底わからないと感じた。そしてたくさんの介護に追われる方々にエールを送りたい。

～2大労働規制改革～

特定社会保険労務士 有光 北斗

再び労働規制改革が世間を騒がせ始めています。安倍首相は、つい先日「この1年間で労働市場改革がいかに難しいかが分かった。しかし、労働改革なくして成長することはできない。我われはそれを実現することを決意した」(ロイター電)と語ったそうです。

アベノミクスの成果が徐々に見え始め、支持率も一定水準にある現政権からの圧力を感じているであろう中央官僚も、可能な改革は積極的に実施すべきとする考え方に傾いているといえそうです。

そこで、今後数年をかけて推進されるであろう労働規制改革が2つあります。いわゆるホワイトカラー・エグゼンプションと解雇の金銭解決制度です。

ホワイトカラー・エグゼンプションは、おおよそ1,000万円の年収水準を条件に原則的に労働時間規制を適用除外とするものです。ホワイトカラーのサラリーマンで年収1,000万円もあれば、もともと重要な役職、ポジションに就いていて、「管理監督者」に限りなく近い者であり、大部分において実態的に残業手当など支払われていません。そうした階層に対し、本人同意の上、労働時間規制を外すことができれば、労働時間と生活時間の双方の活用における自由度が飛躍的に向上することが考えられます。年収低下要因とはならない一方、ワーク・ライフ・バランスに寄与し、労働の効率が上がる方向に進むでしょう。

次に、解雇の金銭解決制度です。裁判などで解雇無効となり原職復帰が認められた場合、一定の方式で算出した解決金額を支払うことにより、労使合意の上退職させることができる制度です。もちろん労使協議により、原職復帰が可能ならそれに越したことはありません。労働者側にとって解決金額がおおよそ把握できるとともに、中小零細企業で横行している安易な解雇にある程度ブレーキがかかるのではないのでしょうか。